

シンガポールにおける中国新移民社団試論¹

劉文正（厦門大学大学院博士課程）

林松涛訳

要旨：1980年代以来、中国大陸、香港、台湾から新移民が大量に南下するにつれ、シンガポールには中国新移民社団が生まれ、めざましく発展を遂げ、シンガポール社会で重要な役割を果たすようになった。本稿は、まず、シンガポールの中国新移民社団が結成された背景および設立・発展の概要を簡潔に述べる。また、それをもとにシンガポールの中国新移民社団の宗旨、内部組織構造、財源を詳しく分析し、新移民社団は、1) 新移民間のコミュニケーション、互助、余暇、健康の場であること、2) 新移民とシンガポール社会の関係を円滑化する重要な架け橋であること、3) 中国文化を伝承し、中国とシンガポールとの経済文化の交流を促進し、双方の友好を深める重要な役目を担うこと、という三つの主な社会的機能を有することを指摘する。その上で、新移民社団の認識を深めるために、新移民社団とシンガポールの伝統中国人社団との違いや関連について詳しく検討する。最後に、本稿の結びの部分で現在のシンガポール中国新移民社団が孕んでいる問題点と今後の展開について言及する。

キーワード：シンガポール、中国新移民、社団

一、シンガポールにおける中国新移民社団成立の背景

歴史的に見れば、シンガポールはかねてから中国人の海外移住の主な目的地と中継地である。1965年、シンガポールがマレーシアから独立し、東アジアにおいて唯一、中国人の割合が人口の絶対多数を占める国家を作った。シンガポールの経済面における大きな成功²、および華人のシンガポールにおける政治、経済、社会、文化面での主導的地位が中国人移民をひきつける要因となった。それと同時に、シンガポールは労働力不足や非華人人口の急増によってもたらされたアンバランスな人種問題に頭をかかえ、その結果、1980年代末から各地の華人のシンガポールへの移住を奨励し始めた。そのような背景のもと、1980年代から今日まで、大量の中国人がシンガポールに移住し、シンガポールの外来移民団体の主な部分となった。庄国土教授の計算によると、2006年時点でシンガポールでの中国人移民の人数³はおよそ35万から38万にのぼり、職種構成は、留学生、専門家、職員、商人および労働

¹ 本論文のシンガポール中国新移民とは20世紀の80年代以降、中国大陸、香港、マカオ、台湾などから様々な方法でシンガポールに移住した華僑・華人を指す。また、シンガポール中国新移民社団はシンガポール中国新移民により作られ、新移民を主なメンバーとする華僑・華人社団を指す。

² 1965年8月、シンガポールがマレーシアより分離・独立・建国してから、1995年7月に経済協力開発機構（OECD）によるシンガポール先進国宣言まで、シンガポールは他国が100年かけて実現する目標をわずか30年間で達成した。

³ 中国新移民の人口統計がシンガポール政府により発表されていないため、その人口については学界での見方も統一されていない。シンガポールの研究者・劉宏は21世紀のシンガポール華人新移民の人口は20万人ぐらいで、世界の華人新移民の約10%を占めると見ている。上海社会科学院の研究員・呉前進はシンガポールの中国新移民集団（違法移民や労働移民を含まず）はすでに30万人余りに達しているとしている。詳細は以下を参照。劉宏『戦後新加坡華人社会的嬗変：本土情懷・区域網絡・全球視野』厦門大学出版社、2003年、p.212。呉前進「1990年以来中国—新加坡民間関係的發展」『社会科学』所収、2006年、第2期。

者などがあるという⁴。シンガポールでの中国新移民は、故郷によって大まかに中国大陸新移民、香港新移民、台湾新移民と三つに分けることができる。その中、大陸新移民の数が香港、台湾のそれより遥かに多いと指摘されている。

改革開放の発展につれ、中国政府がしだいに出国制限を緩和し、1980年代中期より大陸から新移民がシンガポールに入り始めたが、まだ人数は少なかった。1990年代に入り、中国とシンガポールとが国交を結ぶことにより、両国間の経済貿易の往来や文化交流が日増しに頻繁になった。また、中国の出国政策の改定によって中国大陸からの新移民の数が急激に増加した。留学、労務、技術、投資、家族滞在および違法移民などの複数の移住手段があるが、中でも、留学、労務、技術・投資移民は中国大陸の人がシンガポールへ移住する三つの重要な手段である。資料によれば、改革開放から2002年まで、中国大陸からは世界103ヶ所の国や地域へ様々な留学生・研修生を30万人前後派遣し、その中の1.3万~1.5万人がシンガポールに滞在しているという。2007年、シンガポールにいる中国人留学生の合計は3.3万人にのぼり、そのうちの1万人余りは公立大学・短大に、1万人余りは公立小中学校に、1万人余りが各私立学校に在籍中とされている⁵。中国商務部の統計によると、2002年時点で中国大陸からシンガポールに派遣された各種の労務人員の人数は延べ20万人以上にのぼり、2007年末には9万人近くの中国人労働者がシンガポールで働いている⁶。上述した留学生および労務人員のかなりの人がその後もシンガポールに残り、または残る予定である。彼らが中国大陸からの移民の主な部分をなしている。

香港・台湾からの移民もシンガポールの中国人新移民の重要な一部となる。1984年の『中英共同声明』の締結、及び1989年の天安門事件が原因で香港人が主権交代後の見通しに悲観し、憂慮しはじめたこの時期から、香港に大規模な移民の流れが見られた。それと同時に、シンガポール政府が香港の人材や資金を誘致するために、積極的に香港に対して「原則的に認める永住権」許可を5万枚発行し、必要な時だけシンガポールに移住することを許可した。このような背景をもとに、大勢の香港人がシンガポールへの移民を申請し、1997年の時点で約8500人がシンガポールに移住したと、後に李光耀氏が回想録で漏らしている⁷。他の資料によれば、2006年時点で約35,000人もの香港人が永住者資格またはシンガポール国籍を申請し、そのうちの約700人が退役軍人及び兵役中の男性であるという⁸。台湾の場合、1960、70年代に、シンガポールと台湾とはすでに密接で実質的な関係を結んでいた。当時、シンガポールが建国してまもない頃、台湾当局がシンガポールの国防及び経済建設のために大量の軍人・技術者を派遣した。後にそれらの人の多くはシンガポールに残りシンガポール国民となった⁹。1980年代後半に入り、経済の影響で大勢の台湾企業とくに中小企業が事業の再スタートを求めて東南アジアへ向かい、90年代後半になると、東南アジアにおける台湾商人とその家族は10万人を超えた¹⁰。東南アジア経済の中心としてのシンガポールも多くの台湾企業の投資を受け入れている。台湾投資審議

⁴ 庄国土「論中国人移民東南亜の四次大潮」『南洋問題研究』所収、2008年第1期（通算第133期）、p.79。

⁵ 張永興「中国駐新加坡使館為留学生舉辦國慶開放日活動」新華網：

http://news.xinhuanet.com/newscenter/2007-09/30/content_6819069.htm

⁶ 「2007年中国对外承包工程、労務合作和設計諮詢業務統計年報」、「2007年中国对外承包工程、労務合作和設計諮詢人員分国別/地区情況」より引用、中国服務貿易指南網：<http://tradeinservices.mofcom.gov.cn/c/2008-11-28/63624.shtml>

⁷ 李光耀『經濟騰飛路：李光耀回憶錄：1965~2000』、北京：外文出版社、2001年、p.590。

⁸ 「九龍會會長：我們將協助其他新移民融入社會」、『聯合早報』所収、2006年8月22日。

⁹ 蔡錫梅『李光耀誠對中港台』、シンガポール：勝利出版社、2000年、pp.25-31。

¹⁰ 顧長永『台商在東南亞』、高雄：麗文文化公司、2001年、p.146。

委員会の統計によると、1989年から1999年の間に台湾の対シンガポール投資は合計11.54億ドルという¹¹。巨額の投資に伴い多くの台湾商人、企業専門家及びその家族がシンガポールで働き、暮らし、やがて定住した。そのほかにも、シンガポールにおける台湾新移民の少数は留学や技術移民の形で移住してきたのである。

言うまでもなく、1980年代以来、十数万人の中国新移民がシンガポールに流れ込んだことは、アンバランスな人種問題の解決やシンガポールの人口安定や新旧交替を実現した面において大きく貢献した。その上、シンガポール本土の社会、経済、文化に新たな要素や生命力をもたらした。しかし無視できないことは、中国新移民とシンガポールの現地華人とは、教育背景、思想行動、価値観及び生活経験上の違いによって一定の隔たりや衝突は免れられず、それは中国新移民が現地の主流社会への溶け込みを妨げることにもなっている。李光耀氏が指摘したとおりに、「われわれの顔立ちは中国人に似ている上、中国語も話している。しかし、中国からの中国人とシンガポールの華人とが話してみると、すぐにシンガポールの華人はすでに独自の民族になっていることに気づくのだろう」と¹²。そのため、中国新移民とシンガポール華人との間では血縁や文化歴史伝統を共有しているとはいえ、大半の中国新移民は移住当初はシンガポール社会にかなり溶け込みにくい。ひとりの中国新移民としてシンガポールに来たばかりでは、土地になじめず、助けもなく、暮らし、就職、勉強の面で様々な困難に直面するが、伝統華人社団が中国新移民への手助けは限られる。このような状況のもとで、新移民の困難を和らげ、コミュニケーションや協力を強化し、感情面の交流を促進し、彼らがより上手に現地生活に溶け込むために、シンガポールの中国新移民団は結成されたのである。

二、 シンガポールにおける中国新移民団の設立と発展

(一) シンガポールにおける香港・台湾移民団の設立と発展

シンガポールの中国大陸新移民と比べ、香港・台湾の新移民の移住時期は早い。シンガポールにおける香港・台湾からの移民の増加に伴い、香港と台湾の新移民団が1990年代初期から相次いで設立しているのにたいして、中国大陸の最初の新移民団は1999年になって初めて設立されている。1990年4月、香港からの新移民たちが率先してシンガポールで自分の団である九龍会を設立した。この団が香港新移民に同郷の人々と親しむ環境を提供しただけでなく、彼らが現地に溶け込むように努めてきた。十数年間にわたり、九龍会は順調に発展し、今日ではシンガポールの香港新移民の間でもっとも影響力のある団になっている。2006年時点で、九龍会は1500もの家族会員があり、人数は6000～8000人前後に達した。会員には香港新移民が主な部分を占めているが、オープンな入会方式であるため、シンガポール現地の華人、日本人、ドイツ人、インド人などの香港以外の人も少なからず参加し、全体人数の20%を占めている。彼らの多くは香港での仕事の経験があり、または香港人の配偶者であり、或いは九龍会のイベントに惹かれて入会した、などである。現会長の鐘庭輝氏はシンガポールで開業する香港からの弁護士である¹³。九龍網サイトの最新データによると、2009年九龍会

¹¹ これは中華民国經濟部投資審議委員会による民国95年(2006年)の華僑及び外国人・対外投資・対中国大陸投資許可についての統計年報をまとめたものである。

¹² 呉元華『務実的決策：人民行動党与政府的華文政策研究』、シンガポール：聯邦出版社、1990年、p.141。

¹³ 「新加坡一社団免費開班幫助中国陪読媽媽学英文」、新華網：
http://news.xinhuanet.com/overseas/2006-07/17/content_4844927.htm

の会員数は約 4700 家族あるという¹⁴。

台湾の場合は、1980 年代以降、シンガポールに投資にくる台湾企業が日増しに増える中、相互協力や資源の有効活用を促進するため、シンガポールにいる台湾商人が台湾駐シンガポール事務所や經濟部投資業務処の後押しと協力の下で、1991 年 12 月 4 日にシンガポール台北工商協会という工商社団を正式に発足させた¹⁵。当社団の会員には二種類ある。一つは団体会員。シンガポールで登記したすべての台湾資本の企業、支社、子会社、工場、事務所、合同・独立業務執行人、法人団体が入会できる。もう一つは個人会員。台湾からのシンガポール国民または住民は、満 21 才で尚且つシンガポールで起業、就職、居住者であれば、すべて個人会員になれる。シンガポール台北工商協会は商工団体であるけれども、社団活動範囲はビジネスに限らず、個人会員の成長や相互の交流にも力を入れるほか、増えてきた女性会員及び会員のために暮らしや福利にも注目している。十数年間を経て、シンガポール台北工商協会はすでに強い組織力や強靱な求心力をもつ台商団体になり、同時にシンガポールにおける台湾新移民の中で最大の、もっとも影響力をもつ社団に発展してきた。2007 年時点で、この社団に 82 の団体会員や 183 人の個人会員がある¹⁶。また、シンガポールにいる台湾出身の客家人間のつながりを密接にさせ、台湾の客家人とシンガポールの客家人との友好を深め、現地の客家人コミュニティに溶け込ませるために、シンガポールにいる台湾客家人は 2005 年 11 月 11 日にシンガポール台湾客家同郷聯誼会を設立した。現会長は鐘仕達氏である¹⁷。

上述した二つの社団以外に、今現在の台湾新移民はライオンシティにシンガポール宝島クラブと花拉クラブの二つの緩やかなつながりをもつ新移民組織を設立した。シンガポール宝島クラブはもともと台湾から来たいくつかの家族による週末の集まりであったが、後に参加する台湾家庭が少しずつ増えてきて、1993 年 5 月から定期的に食事会を開くようになり、暫くしてから「宝島会」と名づけた。ごく特殊なところは、この組織には機構や定款がなく、毎月「伝令兵」が会員間の連絡係を勤めるだけである。彼らは月一の集まりで郷愁を和らげ、経験を語り合い、共に新規事業を立ち上げている。現在シンガポールで建築業を営む張耀夫氏は宝島クラブの中心人物となっている¹⁸。花拉クラブは本来台商の男性たちが 1980 年代にスタートさせたテニスクラブであった。しだいに多くの台商家族が入会し、クラブはホームパーティーだけでなく、会員を国外への試合や旅行に行かせるなど、長年の発展を経てすでに家族活動を中心とする新移民組織に成長してきた¹⁹。

(二) 中国大陸新移民社団の設立と発展

中国大陸の新移民は 1990 年代からシンガポールに殺到しはじめた。大陸新移民の人数の急増に伴い 1999 年から大陸新移民社団が相次いで設立された。現在、シンガポールにおける大陸新移民社団は大まかに四種類に分けられる。第一は華源会のような総合型社団である。第二は天府同郷会、天津会のような地域型同郷社団である。第三は上海交通大学シンガポール校友会、北京大学シンガポール校友会、シンガポール清華大学校友会のような中国大学の学友会である。第四は華新社団のようなシンガ

¹⁴ 詳細は「九龍会の創立」、シンガポール香港九龍会サイト：http://www.kowloonclub.org.sg/about_us.html

¹⁵ シンガポール台北商協会の資料の詳細については<http://www.tbas.org.sg/index.html>を参照。

¹⁶ 環球経済社股份有限公司編『華僑経済年鑑（民国九十六年版）』、中華民国教務委員会出版、2008 年、p.95。

¹⁷ 「新加坡台湾客家同郷聯誼会成立」、『台湾宏観電子報』掲載、2005 年 11 月 16 日。

¹⁸ 周嘉川：『獅城歲月——重返採訪線上』、台北：台湾商務印書館、2006 年、pp.260-261。

¹⁹ 周嘉川：『獅城歲月——重返採訪線上』、台北：台湾商務印書館、2006 年、pp.262-263。

ポールにいる中国人留学生と専門家たちの集まりで構成された社団である。

まず、第一の総合型社団を見てみよう。シンガポール華源会は中国大陸新移民が2002年5月7日に設立した会である。創始者の王泉成氏²⁰の下、当社は創立当初にシンガポール政府や中国駐シンガポール大使館と親密な関係を持ち多大な協力を受けた。数年間で急速な発展を遂げ、今はすでに中国大陸新移民社団の最大の組織になり、2007年5月時点で華源会の会員数は3000人近くもあり、その大半は1980年代以降中国大陸からシンガポールに移住した専門家である²¹。

次に、第二の地域型同郷社団を見てみよう。四川出身の新移民間の連絡や協力を促進するために、現会長杜志強氏の提案によって、四川出身の新移民たちは1999年12月にシンガポール天府同郷会を設立した。それはシンガポール初の中国大陸新移民社団である。当同郷会設立当初の統計によると、シンガポールでは四川からの新移民が3000人にのぼり、その大半が1990年代以降に南下した新移民である。2008年、天府同郷会には1000名もの会員や50名の理事がおり、その中の約400人が四川から来たという²²。2008年3月20日、新たな地域型同郷社団としてシンガポール天津会が設立した。設立者は12名の天津出身または天津の大学を卒業した新移民である。個人と商号と二種類の会員を設けている。今現在、経営者と専門家を主とした100人以上の会員が入会し、現会長は陳力萍氏である²³。

また、シンガポール中国大学学友会を見てみよう。改革開放後、中国の名門大学出身者は常に海外留学の主力軍である。卒業後、多くの留学生が海外に残り、シンガポールがもっとも重要な集合地域となっている。そのほか、若いときに中国の大学で勉強し、または就職してから、改革開放後、様々な理由でシンガポールに移住した専門家たちも多くいる。したがって、シンガポールの中国新移民の中に、中国名門校の出身者が多く占めている。近年、人数の増加につれ、シンガポールにいる中国各大学の卒業生は、学友間の連絡、母校への報恩、社会へ貢献を目的としてそれぞれ学友組織を設立した。中でもシンガポール内政部に正式に届けた影響力の大きい学友会には、上海交通大学シンガポール校友会、北京大学シンガポール校友会、中国科学技術大学シンガポール校友会、シンガポール清華大学校友会、同済大学シンガポール校友会などがある²⁴。とくにシンガポール清華大学校友会は、2008年5月末時点で届けた正式会員は154人もおり、300人の学友と連絡を取っているという。

最後の一種類は、華新社団のようなシンガポールにいる中国人留学生や専門家たちで結成された社団である。華新社団は2005年7月末にシンガポール社団登録局に許可され、同年の10月はじめに成立大会を開いた。70人近くが最初の会員となり、同会議において初の社団執行委員会も設けられた²⁵。華新社団の前身はシンガポールで勉学に励む中国人留学生が2002年2月に開設した開放式ネットフォーラムである。当ネットフォーラムは開設された当初から、オンラインや実生活をつなげることに力

²⁰ 福建省安溪県魁斗鎮蓬庭村が本籍の王泉成氏は、1987年2月に弱冠19歳で故郷を離れシンガポールで生活を始め、長年の努力の結果、建設業の商人として成功した。2001年にシンガポール華源会の成立を呼びかけ、自身も4回連続で当会の会長となった。また、彼は、シンガポールバスケット協会副会長やシンガポール太原王氏公会の副会長なども務めたことがある。

²¹ 「王泉成宣誓就任新加坡華源会会長」、新華網：http://news.xinhuanet.com/overseas/2007-05/28/content_6160626.htm

²² 2008年5月14日。詳細は以下。張宏平：「杜志強——穿梭在天府与獅城間」、『四川日報』掲載、2008年10月15日、第B01版。区如柏：「天府同郷 以歌会友」、『聯合早報』掲載、2001年11月26日。林曉玲：「本地社団籌款賑災」、『聯合早報』掲載、2008年5月14日。

²³ 「又一個中国移民社団成立 天津会既是同郷会也是商会」、『聯合早報』掲載、2008年3月31日。

²⁴ 詳細は図表1・主要シンガポール中国新移民社団一覧表の通り。

²⁵ 「華新社団發展簡史」、華新社団サイト：

<http://wiki.huasing.org/index.php?title=%E5%85%B3%E4%BA%8E%E5%8D%8E%E6%96%B0>

を入れ、中国留学生の暮らし、学習、仕事のために様々なカンセリングや手助けを提供してきた。数年間の努力でネットフォーラムをしだいに拡大させた。留学生間の交流をいっそう深め、現地での就職や昇進などにつなげるため、2005年に社団として正式に届け出た。華新社団の創始者の一人である鄭毓棟氏が現会長を勤めている²⁶。

シンガポールにおける中国新移民社団が発展してきた10数年の歳月を振り返ってみると、中国新移民社団の発展には二つの特徴が見られる。一、社団数と移民人数が正比例の関係を呈すること。1990年代初期までのシンガポールの新移民は主に香港や台湾から来ており、人数も少なく、規模も大きくないため、新移民社団と言えるのはいくつかの香港や台湾系の社団しかなかった。しかし90年代半ばに入ってから、特に21世紀以来、中国大陸からの新移民がシンガポールに大挙に進出した事情によって、シンガポールにいる中国新移民の数が急激に増加した。それに伴い、シンガポールにおける中国新移民社団も雨後の筍のように相次いで設立された。また、中国大陸からの新移民の人数が香港や台湾の新移民人数を大幅に上回ったため、中国大陸系の新移民社団数も香港、台湾のより遥かに多くなった。二、移住する方式や職業の特徴は社団の性格を大きく左右すると言える。例えば台湾系新移民の多くは、シンガポールに投資する台商や台資企業の管理者や技術者であるため、代表的なシンガポール台北工商協会が商工社団という性格を持っている。中国系新移民の多くは留学という形でシンガポールに来て、シンガポールの各大学や社会の各分野で活躍し、互いの交流や連絡を促進するため留学社団を設立したのである。また、中国大陸系新移民は留学、労務、技術などの形でシンガポールに来たのである。その多くは中国の名門大学の出身者であるため、近年、中国大学のシンガポール学友会も相次いで設立されている。

図表1、主要シンガポール中国新移民社団一覧表

社団名称	成立時期	現社団リーダー	出版物	主な会員構成
シンガポール九龍会	1990.4	鐘庭輝	『橋訊』	香港新移民
シンガポール台北工商協会	1991.12.4	朱兰香	『新缘』季刊	台湾新移民と台湾資本機構
シンガポール台湾客属联谊会	2005.11.11	鐘仕達	—	台湾客家人移民
シンガポール四川天府同郷会	1999.12.9	杜志强	—	四川からの新移民
シンガポール華源会	2001.5	王泉成	周年特刊	大陸新移民
シンガポール天津会	2008.3.30	陳力萍	—	天津からの新移民
シンガポール上海交通大学校友会	2002	廖国明	—	上海交通大学の学友
シンガポール北京大學校友会	2004	舒東偉	—	北京大學の学友
シンガポール中科大校友会	2004	江涛	—	中国科学技術大學の学友

²⁶ 王慧容：「從設網站到組社団 中国留学生拡大交流圏」、『聯合早報』掲載、2006年4月26日。

シンガポール清華大 学校友会	2007. 7. 29	劉春霖	—	清華大学の学友
シンガポール同済大 学校友会	2008. 7	王厚	—	同済大学の学友
華新社团	2005. 7	鄭毓棟	—	中国からの留学生と専門家

注：1、表にある社团はすべてシンガポール内政部社团登録局に正式に登録した社团である。2、資料出所：筆者がシンガポール『聯合早報』と中国新移民社团サイトの関係資料により整理したものである。

三、 シンガポールにおける中国新移民社团の宗旨、内部組織構成および財源

(一) 新移民社团の宗旨

社团宗旨は組織の設立や活動の主な目的であり、社团の基幹とも言える。社团の宗旨が社会や時代のニーズに合っているか否か、大多数の会員の要望に沿っているか否か、所在国の社团管理法にしたがっているか否かは、社团の存続、魅力、生命力の維持をめぐる第一条件である²⁷。シンガポールにおける多くの社团の宗旨をまとめると、各社团の規模・会員構成・設立動機が異なるため、社团の宗旨は、文章においても内容においても統一したモデルが見られず、詳細なものもあれば、簡略なものもあり、専門的なものもあれば、広範なものもある。

例えば、比較的規模の大きい華源会、九龍会の宗旨は、詳細な規定があり、内容も広範囲をカバーしている。中国大陸系最大の新移民社团である華源会の宗旨は（1）会員がシンガポールの多民族社会に溶け込むことに協力すること、（2）会員間の情報交流やコミュニケーションを促進すること、（3）互助・友愛の精神を広めること、（4）会員と他社团との友好を深め交流をはかること、（5）各種の活動を開催することで会員および家族の余暇生活を豊かにさせること、（6）シンガポールと中国とのビジネスを推進すること、と六項目から構成されている²⁸。香港系最大の新移民社团である九龍会の宗旨は（1）会員の日常交流やコミュニケーションの場としてチームワーク精神を培うこと、（2）会員とシンガポール現地の人との友好や相互理解を深めること、（3）新移民がシンガポール社会に溶け込むために力を尽くして支援すること、（4）各種の家族・友人のパーティーを開き、会員のレジャーのニーズを満たすこと、（5）教育、文化、娯楽、福祉事業を積極的に展開し、会員およびその家族にサービスを提供すること²⁹、との五項目から構成されている。一方、中国留学生や一部の専門家によって結成された華新社团の宗旨は比較的簡単なものである。その宗旨とは「シンガポールの各大学・短大で勉強し、またはシンガポールで専門職に従事する中国人に交流とサービスの場を提供し、シンガポールでのプライベートおよび仕事の発展を支えること」である。

シンガポール台北工商協会は主に台商による会であるため、その宗旨は次のようにビジネス上の役割を殊更に強調している。（1）会員の製品やサービスを宣伝し、アジア及び世界市場に普及させ、経済繁栄を図ることを目的とする、（2）会員にビジネス情報を提供し、シンガポールに投資し製品やサ

²⁷ 李明欽：『当代海外華人社团研究』、廈門大学出版社、1995年、p.200。

²⁸ 「華源会章程」、シンガポール華源会サイト：<http://www.myhuayuan.org/newhy/zc.asp>

²⁹ Source from Kowloon Club Constitution, <http://www.kowloonclub.org.sg/clubconstitution.pdf>

ービスを提供する意向を有する企業に協力し、ビジネスチャンスを増やす、(3) 本会の宗旨と類似するシンガポール、アジア及び世界各地の貿易機関との関係を構築する、(4) 会員のためのトレーニング、福祉、レジャー活動を行う³⁰。

シンガポールにある中国大学学友会は、学友間の交流を重視し、卒業生と母校とのつながりを強めることに力を入れている。例えばシンガポール清華大学校友会の宗旨はこのようなものである。(1) シンガポールにいる学友間の交流や友好を深めること、(2) 母校や各地の学友会との連絡を促進すること、(3) 各種のイベントを主催し参加することを通して清華大学やシンガポール現地社会に貢献すること³¹。北京大学シンガポール校友会の基本宗旨は次のようなものである。(1) 北京大学とシンガポールにおける科学研究・教育・文化などの面においての交流や協力を促進すること、(2) 北京大学の卒業生と母校との連絡を密にし、北京大学の在學生にシンガポールを理解してもらい、留学や就職目的でシンガポールに来る学友のためにコンサルティングや支援を提供すること、(3) シンガポールにいる北京大学の学友に交流と提携のチャンスを作り、学友自身の仕事や生活を支援すること³²。

シンガポールにある中国新移民社団の宗旨が文面や内容に多少差異がある一方で、同じ中国新移民が結成した社団である以上、共通の特徴を持つことは言うまでもない。以下のように大きく4点にまとめられる。一、会員間の交流と協力を促進することは新移民社団のもっとも基本的な宗旨である。それは新移民が異質な環境の中で生活するため、生活上でも助け合い暮らしていく、仕事上でも提携し合い発展を求める必要性からである。また、感情の面での交流や慰めをお互いに求めているため、会員間の交流や助け合いを促進することはこれらの新移民社団創立当初からの最も根本的な宗旨である。二、多彩なイベントまたは活動を開催し、会員の福利を向上させ、会員の学習、レジャー、娯楽上のニーズを満たすこと、つまり会員の利益になることは新移民社団が存続する根本的な前提である。三、地域社会に奉仕し貢献し、シンガポールという多文化社会に溶け込むための支援をすることは、社団がシンガポール現地の人々や政府に認められるカギである。四、シンガポールと中国大陸、香港、台湾との間の交流や友情を促すためである。シンガポールの中国系新移民はほとんど初代移民であり、民族・文化のルーツがまだ中国に根ざしており、「故郷を懐かしむ」心でシンガポールと中国との架け橋になろうという責任感を持たせたからである。

(二) 新移民社団の内部組織構造

組織宗旨は社団活動の綱領であり、社団活動の方向を決めるものと言うならば、内部組織構造は組織宗旨を実施するために社団会員を結束する手段であり、中国新移民社団の組織の機能を果たし組織の目標を実現させる基礎であると言える³³。正常で合理的、且つ効果的な内部組織構造を作ることは、他の社団や周囲の環境との様々な関係を円滑化させ、社団組織の求心力を向上させ、組織の運営効果を高めるには重要な意味がある。新移民社団が設立されてからの時間の短さから、本論は静的視点からのみ内部組織構造を分析する。また、シンガポールの中国新移民社団は数が多いため、まずその中から分析しやすく、最も代表的な中国新移民社団である華源会を例に、その内部組織構造を検討し、その上で現在のシンガポール中国新移民社団のいくつかの共通点を検討してみる。

³⁰ 「協会簡介」、シンガポール台北工商協会サイト：<http://www.tbas.org.sg/TC/intro.html>

³¹ 「TAAS会員注冊指南」、シンガポール清華校友会サイト：<http://www.tsinghua.org.sg/ss/html/29/n-29.html>

³² 「校友会章程」、北京大学シンガポール校友会サイト：<http://www.pkuaas.org/?action-viewnews-itemid-1>

³³ 宋平：『承継と嬗変 当代菲律賓華人社団比較研究』、廈門大学出版社、1995年、p.11。

图表 2 華源会内部組織構造図

資料出所：華源会定款と第四回理事会及び管委会組織構造図(2007-2009)に基づいて製作。

華源会サイト：<http://www.myhuayuan.org/newhy/stru.asp>

華源会の定款によると、会員大会は本会の最高権力機関であり、例年会員大会と特別会員大会との二部構成となる。例年会員大会は毎年 4 月に開催し、年間財務報告や年間会務報告を審議する。理事会は会のすべての日常会務を取り締まり、理事会メンバーは選挙年の常年会員大会によって選ばれる。理事会は会長 1 名、副会長 3 名、秘書長 1 名、副秘書長 2 名、財政 1 名、副財政 1 名及び理事 13 名によって構成される。会長は会員大会及び理事会会議の主席を勤めるほか、対外的に本会の代表となる。副会長は会長の仕事をサポートし、会長が欠席する時に代理を務める。秘書長は会の日常的な具体的な業務を担当し、会の各部門間の仕事が円滑にいくよう監督し、財務以外のすべての記録を保管し、会員大会及び理事会の会議紀要を作成し、新会員の登録資料を随時更新する。副秘書長は秘書長をサ

ポートし、秘書長が欠席する時に代理を務める。財政は会の代表として会の基金およびすべての収入や支出記録を保管し、資金流動の会計簿を作り、正確性を確保する。理事会は名誉会長を設けることができるし、その人数に制限がない。名誉会長は本会の発展や理事会の仕事に対して提案や異議を申し立てることができる。理事会は本会の日常会務の必要に応じて管理委員会を設立することができる。管理委員会の設立、メンバーの構成及び責任範囲は理事会によって決定する。また、例年会員大会は投票権のある非理事会の会員二名を会の名誉監査に選び、任期は一年で再任を認めない。監査役は会の今期の全帳簿を監査し、常年会員大会で帳簿監査報告をする³⁴。また、よりよく宗旨を履行するために、華源会は会員班、広報活動企画班、芸術団、文化教育班、貿易班、ネット及び特刊班、体育班、科学技術及び学者交流班という九つの機能班を設置した。

シンガポールの中国新移民社団の内部組織構造を整理し比較分析することを通して、近年の中国新移民社団がその組織機構を構築する際のいくつかの共通点を以下に明らかにした。

一、ほとんどのシンガポールの中国新移民社団は定款を制定するときに、民主的な原則を重んじる。華源会以外にも、その他の多くのシンガポール中国新移民社団は、会員大会が当社団の最高権力機構または最高意思決定機構である明記し、理事会と執行委員会が会員大会によって選ばれる。例えば、九龍会の定款には会員大会を最高権力機構と定め、毎年7月に会を開き、会員大会から執行委員会メンバーや監査役が選ばれる³⁵。シンガポール台北工商協会の定款には、会員大会が毎年1月に行われ、会員大会の投票によって30名の理事からなる理事会を選び、二年毎に理事改選をすることが定められている³⁶。

二、シンガポールの中国新移民社団の内部組織機構は、構造上の違い、複雑であるか簡単であるかの差があるものの、比較的整った組織機構として、基本的に「自身の運営を維持し、宗旨機能を履行し、公共関係を円滑化する」という三方面の内容を核心的なミッションとして設置している。中国新移民社団は、自身の運営を維持するために経費を捻出し共同財産を管理する必要があるため、各社団は一般的に財務、会計、監査および審査者を設けてその機能を履行させる。また、社団の宗旨を履行し様々な活動を主催するために、新移民社団の内部に文教、福祉、スポーツ部門を常設している。たとえば、シンガポール台北工商協会には、サービスと福祉・活動・文教・編集文芸という班を設けており、九龍会はさらに細かく分けてパソコン・文化教育・スポーツ・健康・婦女・ボランティア・児童・編集・医療専門・戦略発展と9つの班を設けている。そのほかに、新移民社団は、社団とその他の社団、政府部門およびその他の機構との関係をスムーズにするため、一般的に広報や交流部門を設置している。たとえば、シンガポール台北工商協会には広報班を設け、華源会には広報活動企画班があり、シンガポール清華校友会では対外関係班を設置している。

三、シンガポールの中国新移民社団の組織構造の中に、ボランティア的な名誉的な色彩が目立つ反面、政治へ介入してはいけないことが強調されている。社団に雇われた一部の正職員³⁷を除き、社団リーダーや幹部は原則的にボランティアであり、兼職で給料をもらえない上、社団のために率先して財力を振るわなければならない。新移民社団はすべて非営利の民間組織であるため、社団の発展に貢献

³⁴ 華源会章程」、シンガポール華源会サイト：<http://www.myhuayuan.org/newhy/zc.asp>

³⁵ Source from Kowloon Club Constitution, <http://www.kowloonclub.org.sg/clubconstitution.pdf>

³⁶ 「協会簡介」、シンガポール台北工商協会サイト：<http://www.tbas.org.sg/TC/intro.html>

³⁷ 例えばシンガポール台北工商協会の秘書処では2名の正社員秘書を雇用し、文書や連絡などの業務を担当させている。

した人たちが名誉の面で報われるしかない。そのため、新移民社团は一般的に名誉会長、名誉顧問など名誉的な職を設けている。社会各分野の有名人をアドバイザーとして招き、会の運営についての指導をうけることは、むしろ社团の知名度をあげてきた。たとえば、いま現在、シンガポール台北工商協会は名誉会長を 10 名設けているほか、社会各分野の有名人または専門家を顧問として 10 名招いている。華源会は名誉会長を 9 名設ける上で、シンガポール人力部代部長の顔金勇氏に名誉顧問を担任してもらっている。そのほか、新移民社团の長期的な発展およびシンガポールの特別な国の事情という観点から、九龍会、華源会など多くの社团は定款の中で政治に参加してはいけない、公的資金または会所を政治目的に提供してはならないと明記している。

(三) 新移民社团の財源

経費の問題は社团の存続・発展にかかわる核心的な問題である。社团のために比較的安定した財源を捻出することは、社团が一定の宗旨にしたがって組織機構を設置した後、その社会的な機能を果たす前提の一つである。シンガポールの中国新移民社团は非営利的な民間ボランティア団体であり、存続・発展のため、様々な手段やルートを通して経費を捻出する必要がある。複数の新移民社团に関する比較研究を通して、いま現在シンガポールにある中国新移民社团には四種類の財源があることが明らかになった。それぞれは、1、社团会員が納めた会費。2、寄付金（社团会員または社会一般からの寄付）及びイベント収入。3、法律が認める範囲内で社团が従事した一定の経営収入。4、政府の関係部分からの資金援助。ただし社团によって四種類の財源が占める比重が異なる。

まず、社团会員が納めた会費についてであるが、ほとんどの中国新移民社团は定款に本組織に加入する会員には会費を納める義務があると明確に定めている。会費はふつう入会費と年会費と二種類がある。たとえば、九龍会の定款には、個人一般会員と団体会員はそれぞれ入会費 20 シンガポールドルと 500 シンガポールドルを納付すること、入会后、個人一般会員は執行委員会の要望に応じて年会費を支払い、団体会員は入会費の 20%で年会費を納めること³⁸と定めている。華源会の定款には、すべての新入会員が入会費 10 シンガポールドルを納めるべき、入会后、年会費 30 シンガポールドル（本会の財政状況により会員大会に別途に定めがある場合を除く）を毎年納め、そのうち、中高等学校の学生会員の年会費は 15 シンガポールドルで、定年退職者は入会費を免除となり年会費も半額となる³⁹と定めている。つまり、会費の徴収は、新移民社团に安定した財源を確保し、社团の存続にとって極めて重要なことである。しかしより多くの新移民の入会を誘うため、社团が会費をあまり高く設定できず、実際の運営過程において会費収入が新移民社团の経費の中に占める比重はそれほど高いものではない。ほとんどの新移民社团は他の方面から財源を捻出せざるを得ないのである。

つぎは、寄付金やイベント収入についてであるが、かつて寄付は海外華人社団の最もよく使われる資金集めの方法であった。シンガポールの中国新移民社团も例外ではない。寄付の方式には、定期的な年度寄付や大きな突発事件が起きたときの個別な寄付がある。寄付の中身は主に現金ではあるが、現物、不動産なども含まれている。寄付は一般的にカンパ興行・チャリティーバザー・チャリティー展示会などの方式で行われる。その場合、新移民社团のリーダーたちはよく率先して寄付する。たとえば、華源会の芸術団はシンガポールの同済病院のためにチャリティー公演を行い、12 万シンガポ-

³⁸ Source from Kowloon Club Constitution, <http://www.kowloonclub.org.sg/clubconstitution.pdf>

³⁹ 「華源会章程」、シンガポール華源会サイト：<http://www.myhuayuan.org/newhy/zc.asp>

ドルの科学研究費の募金に成功した。またたとえば、2008年5月の中国四川（汶川）大地震が起きたあと、シンガポール天府同郷会が積極的に会員および社会一般に寄付を呼びかけ、20.08万シンガポールドルの募金を獲得した。募金の80%は天府会の理事たちからのもので、中でも会長の杜志强氏は個人で6万シンガポールドルを寄付した⁴⁰。また、新移民社团は財力が不足しているため、比較的大きいイベントを開催するときも、通常は参加する会員から一定の参加費を徴収する。これも新移民社团の重要な財源の一つとなっている。たとえば、シンガポール台北工商協会が食事会や年越しパーティーなどのイベントを行うとそのたびごとに一定の金額の参加費を徴収する。

また、限定されている経営活動を通してその組織が公益事業やイベントを行う経費を補填することも、いま現在のシンガポールの中国新移民社团にとって財源捻出の重要な方法の一つである。具体的には、社团不動産を購入して外部へレンタルし、または人を雇って経営すること、あるいは基金を設立し、有料の団体雑誌を発行したら、またはネット広告で収入を得たりなどの形式がある。たとえば九龍会は経費収入を増やすために、社团の500平方フィートの会議室をレンタルしている⁴¹。華源会は財源を確保するために基金を設立している。また、九龍会の団体雑誌である『橋訊』に広告欄を設け企業から広告料を得ている。シンガポール台北工商協会は会の設立当初から2001年まで毎年20日ごとに特集『台商会訊』⁴²を毎回2000冊発行し、経費はすべて会員の広告費から賄っている⁴³。華新社团は収入を増やすため、華新网サイトにもたくさんの商業広告を載せている。

最後の一種類の財源は政府の関係部門からの資金援助である。このたぐいの資金援助には、金銭または実用品の提供ないし帰郷の際の接待など複数の形が含まれている。台湾当局の僑務政策の中で経済面で海外華人社団をサポートすることが重視されている。1990年代以来、台湾の経済発展につれ、海外華人社団を支援する経費はかなりの金額に達した⁴⁴。1995年1月に、台湾の「僑委会」は資金援助をめぐって『海外華僑団体経費補助要点』を定め、その後の数年間をかけて少しずつ改訂していった。その規定によると、「設立宗旨が政府の政策に相応しい、本会または駐在機構と頻りに連絡を取り合い、且つ現地の僑胞より好評を得ている」華僑団体がイベントを行い、会所を修繕または設備を更新し購入する場合、補助金を申請することが可能である⁴⁵。シンガポール台北工商協会自体は台湾の駐在機構の推進のもとで設立されたもので、「僑委会」の各政策、活動に積極的に協力してきた。たとえば「僑委会」が主催する各種研修会の申し込み・受講生募集の手伝い、僑務工作シンポジウムの開催、「僑委会」が主催する世界的な懇親会または社团活動への参加など。以上の事例から、シンガポール台北工商協会が補助金申請の条件にかなり相応しく、しかも台湾政府の関係部分から資金提供を受けている可能性も大きいことがわかる。一方、中国大陸の関係部門は、新移民社团がコンサートや中華文化展示会などのイベントを行う際、道具・服装・展示品などの面においてサポートし、また中国

⁴⁰ 「新加坡天府会向四川省转交地震捐款20万新元」、新華網：
http://news.xinhuanet.com/newscenter/2008-05/25/content_8246555.htm

⁴¹ 詳細は九龍会：『橋訊』（月刊）、2008年12月号、p.5。

⁴² 『台商会訊』を2002年より『新縁』季刊と改め、豊富な絵図と優れた文章で会務活動、会員の状況などを忠実に記録しており、経費は依然として会員の広告掲載に頼っている。

⁴³ 詳細は「華僑経済年鑑——東協篇（中華民國八十九年版）」、中華民國僑務委員会サイト：
http://www.ocac.gov.tw/dep3/profile/yearbook_1/Yearbook.htm

⁴⁴ 1999年の台湾「僑務委員会」の支出は華僑や華僑団体への連絡や接待、華僑文化教育業務、華僑学校発展及び補助に関する3項目だけで10億台湾元を超える額である。詳細は『僑務委員会予算総説明（中華民國90年度）』、p.17。

⁴⁵ 詳細は「海外華僑団体経費補助要点」、中華民國僑務委員会サイト：
<http://www.ocac.gov.tw/public/public.asp?selno=344&no=344&level=P>

各地方の関係部門は社団のリーダーが帰郷した際に適切に接待している。ただし全体的に見ると、政府関係部門からの資金援助は新移民社団の財源に占める比重は低く、しかも資金援助は基本的に非公開なものである。

四、中国新移民社団の社会機能

(一) 新移民のコミュニケーション、互助、余暇、健康の場としての中国新移民社団

新移民社団のもっとも重要な機能は、新移民に尽くすことであり、これが新移民社団の根本的な存在理由でもある。新移民が異国環境におかれて、暮らし・勉強・仕事などの面において様々な困難に直面する中で、新生活になじむために一日も早く人間関係のネットワークを作り上げる必要がある。このとき、まさに新移民社団が新移民たちにコミュニケーション、互助、余暇、健康の場を提供してくれる。この場を通して、情報交換やコミュニケーションが行われ、新移民の余暇生活が豊かなものになり、異郷での寂しさが癒されるだけではなく、その上で互助・友愛の精神が育まれ、新移民の具体的な困難を団体の力を借りて解決し、仕事の面においても新移民は助けられる。

新移民団体は、新移民間のコミュニケーションや互助を促し、新移民の余暇、健康に対するニーズに応えるために、様々な形で有意義なイベントを開催している。イベントは大きく四種類に分けられる。一、正月や祝祭日に開催する規模のわりと大きいパーティー、お茶会、食事会など。たとえば、華源会が重要な祝祭日に「中秋を祝う会」「クリスマスパーティー」「新年パーティー」「新春の団体挨拶」「新春お茶会」などの親睦イベントを開催している。また九龍会、台北工商協会などの新移民社団もこのたぐいのイベントを開催した。二、普段でも遠足、食事会、カラオケなどの交流イベントを開催している。たとえば、シンガポール台北工商協会は毎月末に工商食事会を催し、月毎に会員が交代でカラオケ大会の開催を協賛する⁴⁶。九龍会は不定期にシンガポール市内の半日ツアー、シンガポールの周辺国家への短期ツアーを組んでいる。三、多種多様の研修・セミナー・講座を開き、生活上の問題を解決するために様々な暮らし、仕事の情報を提供している。たとえば、九龍会は頻繁に不定期の新移民向けのパソコン知識・財テク・健康関係の講座を開き、また留学生ママ向けの「無料英語勉強会」を数回開いた⁴⁷。とくに指摘すべきは、香港や中国大陸からの新移民が不景気による困難を乗り越えるために、九龍会が2009年3月より毎週「ともに難関を乗り越える交流会」や「鐘Sirに英語を習う」という二つのイベントを開催していることである⁴⁸。華新社団の華新网は新移民向けにシンガポールで生活・就職するための様々な情報を大量に提供し、また白血病にかかった中国留学生を助けるために募金を呼びかけた。四、新移民の子供たちに奨学金を提供し、会員向けに各種スポーツイベントを開催した。華源会、シンガポール台北工商協会など多くの新移民社団は学業や人格に優れた会員の子供たちに奨学金を与えている。スポーツ大会で一番活気溢れる新移民社団は九龍会である。この社団はスポーツ班の下にバトミントン、ドラゴンボード、サッカー、ゴルフ、卓球、テニスなど6つのチームを設置し、その中のドラゴンボードチームやサッカーチームは毎年国際試合に出場し、輝かし

⁴⁶ 「2008年活動回顧」、シンガポール台北工商協会サイト：<http://www.tbas.org.sg/TC/review.html>

⁴⁷ 「新加坡一社団免費開班幫助中国陪読媽媽学英文」、新華網：http://news.xinhuanet.com/overseas/2006-07/17/content_4844927.htm

⁴⁸ 潘星華：「九龍会与新移民有個“见面会”」、《聯合早報》掲載、2009年3月2日。

い成績を数回も勝ち取った⁴⁹。華源会には囲碁チームがあり、第五回シンガポール囲碁リーグ戦で優勝した。台北工商協会は毎年6月に裕華ゴルフチームと「工商裕華ゴルフ親善試合」を共催している。

(二) 新移民とシンガポール現地社会の関係を円滑化する架け橋としての中国新移民社団

中国新移民はシンガポールに辿りついてから、彼らの生活や仕事はシンガポール現地社会と密接な関係を持ち、シンガポール社会に受け入れられるかどうか、シンガポール現地社会に本格的に溶け込めるかどうか、新移民にとって生活の安定や事業の成功にかかわる肝心な問題となる。こういった状況のもとで、新移民社団の重要な機能のひとつは、新移民とシンガポール現地社会との関係を円滑化にしながら、新移民にシンガポール社会をもっと知ってもらい、新移民がシンガポール現地社会に溶け込むように手助けをすることである。一方、シンガポール現地社会にも中国新移民のことをより知ってもらい、誤解を無くし、新移民を受け入れてもらえるように働きをかけることである。

中国新移民社団は長期にわたり新移民とシンガポール現地社会と関係の円滑化を図ってきた。華源会は、中国新移民が現地での疎外感や文化上の相違を乗り越えられるように、現地社会の各側面をより深く理解できるように、よりスムーズにシンガポール社会に溶け込むように様々な努力をしてきた。たとえば、シンガポール川の歴史ツアー、シンガポール教育講座、シンガポール建国記念パーティーを開催した。会員向けの移民政策、就職、生活など各方面の無料コンサルティングを行った。また、シンガポール人民協会と協力して中国新移民が現地社会へ溶け込むように力を尽くしてきた。また、九龍会はインドクラブなど他社団との間に交流や協力関係を深め、お互いのコミュニケーションや相互理解を促進した。また、中国留学生総会と提携し、留学生の現地社会への理解を深め、彼らが卒業後に直面する就職、居留権の申請などの問題において必要な協力をした。華新社団は毎年、シンガポール国立大学中国留学生会とともに『新入生パンフレット』を編纂し、新しい中国留学生に配り、シンガポールでの勉強や暮らしに馴染めるように指導した。

その一方で、シンガポール現地社会に中国新移民をより深く知ってもらい、隔たりを除き、もっと寛容的に新移民を受け入れてもらえるように、新移民社団が多く努力を払い、シンガポール現地コミュニティとの交流を拡大した。華源会の芸術団は民間に入り、連絡所や一部の社団や学校のために20数回のコンサートを開催し、シンガポールに芸術的な要素や雰囲気を増した⁵⁰。九龍会は2000年に浜海湾で「シンガポールの友」という大型嘉年華会を開き、多くの現地や外国籍の方の参加を得て、新移民とシンガポール現地社会との交流を拡大した。2002年11月、九龍会は人民協会の提案に応じて、現地初の異民族交流組織である「聯合和諧圈」(Joint Harmony Circle)⁵¹に入会し、その後、毎年「和諧圈」に属するその他の組織のリーダーを晩餐会に招待し、圈内の異なる民族間の友好を深めた。そのほか、九龍会はチャリティーイベントを数回行った。大規模なものは公益金国慶予演慈善募金・総統府開放日チャリティーバザー・聖淘沙ビーチ中秋慈善募金パーティー・マレー回教児童院訪問・慈光慈善チャリティー競走・新春老人ホーム訪問や献血運動などがある。シンガポール台北工商協会は毎年の端午や中秋の日に、慰問団をつくり、交通不便なところにある「日愛精神療養院」を訪問し、

⁴⁹ 九龍会：『橋訊』（月刊）、2008年11月号、p.5。

⁵⁰ 夏婧：「華源会致力為新移民服務」、『聯合早報』掲載、2002年5月6日。

⁵¹ 「協会簡介」、シンガポール台北工商協会サイト：<http://www.tbas.org.sg/TC/intro.html>

寄付金・日用品と洋服を贈り、療養中の患者たちとともに祝日を迎えている⁵²。言うまでもなく、こういったイベントはシンガポール社会に新移民をよりよく知ってもらい、誤解を解消し、もっと中国新移民を受け入れてもらうことにつながった。

ここで指摘すべきことは、新移民団が新移民とシンガポール現地社会との関係を円滑化させる努力はシンガポール政府から高く評価されている点である。シンガポール総理の李顯龍氏は、華源会成立一周年を祝う会の挨拶の中で、華源会がその他の宗郷会館や民族と協力し、会員らのシンガポール独特の、調和的な多民族社会への理解を深める努力を称え、「華源会のような組織は、シンガポールの早期の宗郷会館と同じくわが国で極めて重要な役割を果たしている」と指摘している⁵³。

(三) 中華文化を伝承し、中国とシンガポールとの経済文化交流を推進し、友好を深める重要な媒体としての中国新移民団

シンガポールの中国新移民団が中華文化の伝承を重んじるのは、内外要素による結果である。内部要素として、まず新移民団の団結力や求心力は、新移民個人が新移民母体や団に対する帰属意識と関係しているからである。中華文化の伝承は、間違いなく新移民自身の民族や文化への帰属意識を深め、したがって新移民の団結力を促進し、団の内部結束や発展を確保できる。また、新移民は皆一代目の移民であり、中華文化の色彩やニーズも強く持ち合わせている。新移民団が開催した中華文化の伝承にかかわるイベントはまさに会員のニーズを満たすものとなる。外部要素として、シンガポールは他民族国家ではあるものの、華人がシンガポール社会をリードする力となっていることで、中華文化を広める良好な環境が整っているからといえる。その上、1980年代以来、シンガポール政府も進んで華文教育や伝統文化事業に力を入れてきた。これを背景にして、中華文化に十分な認識や強い帰属意識を持つ中国大陸、香港、台湾の専門家としての中国新移民団の多くの会員は、中華文化を受け継ぐ面において積極的な役割を發揮する能力を備えているだけでなく、これは彼らの義務でもある。

華源会は創立以来、中華文化の伝承に力を入れてきた。たとえば、華源会が『聯合早報』などの機構と「第四回全国華語スピーチコンクール」⁵⁴を共催し、華族文化祭の期間中に「今宵絶えない笑い声コントパーティー」を主催し、「中華風情」2008 大型華族舞踏音楽パーティーを開催し、『孔子思想と現在社会』『中華文化の生死観』などのシリーズ講座を開設し、青少年のために「快樂華文キャンプ」などのイベントを行った。シンガポール清華校友会は、武術・太極拳教室を開き、中国の歴史文化を調べ、中国語への興味を培い、中国語の読解・作文・コミュニケーション能力を高めることを目的とする清華海外学友の子女サマーキャンプなどの活動を行った。上述の活動はいずれも新移民団が中華文化を伝承に尽力し貢献したことを語るものである。

新移民たちは中国から離れて日が浅い上、ほとんどが中国で一定のレベルまでの教育を受けてきた人たちである。一部の人の直系親族は中国国内で暮らしているため、彼らは中国に深い愛情を抱き、中国の発展に関心を持ち続けており、故郷と密接な関係を保っている。こういった「中国意識」はおのずから新移民が結成した団の中に映りだす。それゆえに新移民団が誕生の日から中国本土また

⁵² 張嘉玲：「協助香港移民融入社会 九龍会發揮双層效用」、『聯合早報』掲載、2003年4月3日。

⁵³ 「李顯龍総理献詞」、華源会サイト：<http://www.myhuayuan.org/newhy/t1.asp>

⁵⁴ 林慧慧：「第四届全国華語演講大決賽揭曉」、『聯合早報』掲載、2001年9月17日。

は中国をめぐる起きた様々な国際的な大事件から目を離さず、居住国と祖国の間の友好関係を深めることに強い責任感を持っているのである。シンガポールの中国新移民社団も例外でない。彼らは中国とシンガポールとの経済文化交流の架け橋や重要な媒体となり、中国とシンガポール間の人的交流を推進し、双方の経済貿易関係の発展を促進し、中国の発展や変化に注目し、できる限り尽力してきた。

中国とシンガポールの間での人的交流を推し進める面では、新移民社団は積極的に多くの有益な仕事をしてきた。彼らはシンガポールを訪問する中国人を親切にもてなし、また中国への訪問団を募る。華源会は2001年成立以降、シンガポールを訪問する泉州・浙江・重慶・アモイ・鉄峯・南昌など中国の省・市の代表団、文化交流のためにシンガポールを訪ねる中国の芸術団体や学者を数多く接待した。一方、華源会も数回にわたり団体で帰国した。たとえば、2005年に華源会が団体で江西省へ海外華僑中青年優秀人物「華夏行」というイベントに参加し、2007年6月に団体で青海、チベットを視察した。中国大学のシンガポール校友会も中国側の訪問者とくに中国からきた校友をもてなす面において重要な役割を果たしてきた。たとえば、2007年11月に中国科学技術大学シンガポール校友会は、蘇州の市長で学友でもある閻立がシンガポールを訪問した際に親切にもてなしている。とくに指摘すべきは、新移民社団も頻繁に人員を派遣し、または団体を組んで帰国して僑務部門が主催する各種懇親イベントや研修会に参加していることである。たとえば、華源会は数回にわたり華人社団懇親大会および海外僑団青年幹部研修会に参加するために人員を派遣した。シンガポール台北工商協会も数回にわたり海外僑商企業管理（営業企画）研修会、台商会の青年エリート幹部研修会およびその他の様々な台商懇親会へ参加するために会員幹部を台湾へ派遣している。

中国とシンガポールとの経済貿易関係の発展を促進する面において、中国新移民社団は力を惜しまずに貢献している。華源会の重要な宗旨のひとつは、中国とシンガポールとのビジネス交流を促進するところにある。そのため、華源会は2001年より相次いで団体として中国とシンガポール両国が主催した「寧波商業貿易交流会」「寧波経済考察団」「昆明輸出商品見本市」「汕頭東盟商品展」「世界華商フォーラム」などの多くのビジネス交流イベントに参加した。華源会の会長である王泉成氏が、中国とシンガポールとの往来に言及した際こう指摘した。「華源会は、シンガポール人と中国の間にて架け橋としての役割を果たし、互いの貿易における協力関係を促進することができる。…われわれが中国の市場を熟知する上で、また人間関係の面でも利点があることから、連絡の場を提供するだけでなく、会員またはシンガポール人が中国で起業する際の手助けもできる」⁵⁵。王泉成氏本人は祖国の大陸に投資し企業を数社設立した。故郷の安溪県に建てた明園大酒店の投資だけで1億人民元を超えている⁵⁶。シンガポール台北工商協会は台商の間に、台商と政府の間に体験を語り合う場となり、台商がシンガポールに商品をアピールし、またはシンガポールへ投資する際にコンサルティングや協力を提供する⁵⁷形で台湾とシンガポールとの経済貿易の交流を促進した。言うまでもなく、中国新移民社団がシンガポールと大陸・台湾の経済貿易交流を推進する面において重要な役割を果たした。また、華人経済が時代の流れにそって国境を超えての発展を求める客観的なニーズは、中国とシンガポールの経済交流を推し進める新移民社団の長期的な強い推進力となる。

⁵⁵ 張嘉玲：「郷情・友情・一線牽」、『聯合早報』掲載、2006年2月23日。

⁵⁶ 「新加坡華源会会長王泉成」、『今日中国』掲載、2005年第10期、pp.50-51。

⁵⁷ 環球経済社股份有限公司編『華僑経済年鑑（民国九十六年版）』、中華民国教務委員会出版、2008年、p.95。

新移民社团は中国の発展と変化に常に注目している。社团の会員が、祖籍の地の公益事業に金銭や力を貢献し、中国国内で自然災害が起きた際に、中国のために救援・寄付に奔走し、中国とシンガポール両国の国民間の友好を深めることが、長期間にわたりシンガポールの中国新移民社团の重要な社会機能の一つとなっている。まず新移民社团は中国の発展に熱く注目している。たとえば華源会は「北京オリンピック申請成功を祝う大ダンスパーティー」「中国初有人宇宙船打ち上げ成功を祝う会」などを開催した。天府会は現地で中国西部投資誘致会を開き、より多くの人に中国の西部地域を紹介し、西部地域への投資を誘致した。華源会会長の王泉成氏は、長期にわたり故郷の公益事業に貢献してきた。校舎を建て、教育基金や高齢者活動センターを設立し、または橋梁を作り道路を敷設し祖祠を建てる際に、彼はいつも物惜しみなく資金援助をしている。2007年までに王泉成氏の祖国への寄付金は1千萬元人民元を上回った⁵⁸。1999年台湾で九・二一大地震が起きた際、シンガポール台北工商協会が会員を動員し、災難地域のために25万シンガポールドルの募金を集めた⁵⁹。2008年の中国で雪災害や四川（汶川）大地震が起きた際に、シンガポールの中国系新移民社团（シンガポール台北工商協会を含む）は寄付を呼びかけ、その中、天府会や華源会は四川震災地域に27万シンガポールドル以上の寄付金を贈った。新移民社团が中国の発展や変化に注目し、できる範囲内で中国を助けることが、中国とシンガポール両国の国民間の友好を深めることにとって重大な意義を有することは言うまでもない。

五、新移民社团と伝統華人社团の違いや関連

（一）新移民社团と伝統華人社团の違い

新移民社团と伝統華人社团の違いは、主に次のいくつかの側面から見られる。

一、設立時期、背景が異なる。シンガポールの華人社团の大部分はイギリス植民地時代に結成している。19世紀前半以降、シンガポールに南下した華人の移民たちは、立脚・生存・発展のために「幫」団体という枠組みの中で、血縁・地縁・業縁などが特徴とする複数の伝統華人社团を相次いで設立した。1819年に結成されたシンガポール初の華人会館である「曹家館」から計れば⁶⁰、シンガポールにおけるの宗郷会館の歴史はシンガポールの開港の歴史と同じ長さと言える⁶¹。いま現在、シンガポールには百年以上の歴史をもつ華人会館が数十所存在している。それに対してシンガポールの中国新移民社团はほとんど1990年代以降に結成されたもので、歴史はまだ20年も経っていない。それらは1880年代以降中国新移民の数が増加したことで、新移民間で連絡し合い・互助・シンガポール社会に溶け込むことを目的として結成された社团組織である。

二、経済力の面で大差がある。シンガポールの多くの伝統華人社团は長期的に存続し発展する必要性から、社团のリーダーの提案や支持にしたがって社团の公共財を購入し、活動する会所を確保し、ないし大規模な基金や経済実体を設立し、経済力が豊かと言える。たとえば、福建会館は8階建ての商業ビルを持ち、雲南園実業私営有限公司を経営し、天福宮・金蘭廟・麟山亭・梧槽大伯公廟の四つ

⁵⁸ 「王泉成連任新加坡華源会会長」、新華網：

http://news.xinhuanet.com/overseas/2007-04/01/content_5921538.htm

⁵⁹ 吳漢鈞：「台北代表処感謝我国政府和人民的援助」、『聯合早報』掲載、1999年9月28日。

⁶⁰ 新加坡華會館沿革史編輯委員會編：『新加坡華人會館沿革史』、新加坡新聞与出版有限公司、1986年、p.61。

⁶¹ 区如柏：「新加坡的華人社团：宗郷会館」、『中国社会報』所収、2004年8月18日。

の廟を運営している⁶²、シンガポールの中華総商会や宗郷聯合総会は大規模な基金を設置し正式に届けた⁶³。その一方、シンガポールの中国新移民団体の大部分は固定の会所を持たず、会議またはイベントを行う際に会社や他の場所をレンタルするケースが多い。活動に使われる経費も限られており、華人企業の実力者からの協賛も多く得られず、財源は会員から徴収する会費や一部の寄付から捻出されている。

三、会員構成や団体の主要な機能が異なる。新移民団体の会員は主に新移民によって構成されるため、新移民団体の機能は主に新移民の相互間の交流の場として、新移民がシンガポールの現地社会に溶け込めるように手助けをするところにある。一方で、シンガポールの伝統華人社団は主にシンガポールの現地の華人によって構成されるため、サービスの対象も主に現地の華人である。移民時代や本土社会の歴史的な変動を経験したことで、シンガポールの伝統華人社団の社会機能もいくつかの調整や変化を経てきた。現在の華人宗郷団体の場合、中華文化を伝承し、華人文化への帰属意識を促し、シンガポールの文化教育事業を推進することが一番重要な社会機能になっている⁶⁴。

四、現地や祖籍地への関心度が異なる。大まかに言うと、伝統華人社団は、現地への関心度は祖籍地への関心を遥かに上回るのに対して、新移民団体は両者への関心度は同じレベルに置いている。シンガポールの伝統華人社団が現地社会へ注目する背景には、戦後シンガポールの伝統華人社団の本土化の過程が映されている。最初、中国の母体から生まれ、故郷や祖国へ強い関心をもっていたため、会館の一番重要な役割は「故郷へのつながりを強める」だった。その後「異郷に暮らす気持ちが薄まる」につれ、メンタリティや体制上においての本土化が進み⁶⁵、現地社会への関心もしだいに故郷への関心を上回った。

五、国際的な華人社団と連携する程度や世界中の華人社団への影響力の面では、シンガポールの伝統華人社団は、新移民団体より遥かに強い。越境化・グローバル化は現代の世界中の海外華人社団にみられる重要な流れである。シンガポールの伝統華人社団は、独自の地理的な優勢、歴史人文環境、豊かな経済力に基づき、世界的または広域的な親睦会を開いたり、世界的または広域的な宗親会または同郷聯誼会を設け、各地の宗郷会館間の連携を促し、ともに発展を求め、さらに血縁・地縁関係に基づいてビジネス活動を繰り広げている。今現在、シンガポールの伝統華人社団はすでに「全世界華人社団及び中国祖籍地とのネットワークの中核や主な連絡センターのひとつ」となっており⁶⁶、世界華人社団グローバル化の流れの中で重要な役割を果たしている。しかし、伝統華人社団と比べると、シンガポールの中国新移民団体は、国際的な華人社団との提携が比較的少ない上に、世界華人社団への影響力もずっと弱いと言わざるを得ない。

六、シンガポールの伝統華人社団には最高統合機構があるが、新移民団体にはそれに相当する機構はない。その上、新移民団体の数は伝統華人社団よりずっと少ない。シンガポール中華総商会は、1986年のシンガポール宗郷会館聯合総会が成立する前に、現地の華商・華社の実質上の最高統合機構とな

⁶² 「福建方言組織」、新加坡宗郷会館聯合総会サイト：<http://www.sfcca.org.sg/Member/XQ/Fujian.htm>

⁶³ 李明敏：『当代海外華人社団研究』、廈門大学出版社、1995年、p.300。

⁶⁴ 曾玲：「調整与転型：当代新加坡華人宗郷団体変遷」、『暨南学報（人文科学与社会科学版）』所収、2005年第1期、p.109。

⁶⁵ 劉宏『戦後新加坡華人社会的嬗変：本土情懷・区域網絡・全球視野』、廈門大学出版社、2003年、p.264。

⁶⁶ 曾玲：「調整与転型：当代新加坡華人宗郷団体変遷」、『暨南学報（人文科学与社会科学版）』所収、2005年第1期、113ページ。曾玲：「認同形態与跨国網絡——当代海外華人宗郷団体の全球化初探的討論」、『世界民族』所収、2002年第6期、pp.45-55。

っていた。1986年以降、シンガポール中華総商会と宗郷会館聯合総会は肩を並べてシンガポール伝統華人社団の最高総合機構となった。今現在、131の商業団体会員と4000名の商号会員がシンガポール中華総商会に所属しており⁶⁷、191の宗郷団体会員がシンガポール華人宗郷団体の最高機構としての宗郷会館聯合総会に属している⁶⁸。それらと比べると、現在のシンガポールの中国新移民団には、統一した最高総合機構がなく、中国大陸・香港・台湾の新移民団の間には明確な隔りがあり、連携はまだ不十分である。このことは、ある意味では現代中国の国内政治情勢が新移民団での延長や投影と言える。資料によると、1983年シンガポール全国では計4600以上の団がある⁶⁹。その中の「純華人社団または華人の中で影響力が強い団は約500」⁷⁰であるのに対し、シンガポールの中国新移民団の数は今日までも20に達していない。

(二) 新移民団と伝統華人社団の相互連携

お互いに華人社団であり、同じ種族・文化アイデンティティを持つことは、新移民団と伝統華人社団の連携のための揺るぎない基礎となった。お互いの連携は、まず新移民団と伝統華人社団と会員をそれぞれが受け入れ合う点に現れていると考えられる。華源会、九龍会などのような多くの新移民団はシンガポール現地の人に対してオープンであり、新移民団への入会を歓迎している。また新移民団はよく華人会館のリーダーを団体の顧問役に迎え、団体へのアドバイスを求めている。一方、多くのシンガポール伝統華人社団も新移民の入会を認めている。その結果、多くの中国新移民は、新移民団の会員でありながら、伝統華人社団の一員でもある。たとえば、シンガポール中華総商会は中国大陸・香港・台湾・マレーシア等地域からの華人新移民の入会を促すため、2007年に「移民連絡班」を設置した⁷¹。90年以上の歴史を有する晋江会館は、近年すでに数十人の新移民会員を吸収した。現在の晋江会館青年団で活躍する30数名のうち、半分は新移民である⁷²。また百年の歴史を持つ会館としての三江会館は、2003年に中国新移民3名を理事会に迎え、副総務・対外連絡等の職に就けた⁷³。その中の李国生氏は三江会館の副総務と華源会の秘書長を兼任していた。また、新移民の中でも重要な華僑リーダーである王泉成氏は華源会の会長とシンガポール太原王氏公会の副会長を兼任している。新移民団と伝統華人社団会員の融合が連絡し合う上で大事な接点となっていることは疑うべきでない。

新移民団と伝統華人社団との連携は、イベントの開催で協力する点にも現れている。新移民とシンガポール現地の華人との相互理解を促し、新移民がシンガポール社会へ溶け込むように、新移民団と伝統華人社団がそれぞれイベントを開催するときに誘い合いまたは共催する。華源会はコンサート、芸術イベント及び理事会就任式などの重要な活動を行うたびに、シンガポールの伝統華人社団リーダーや会員を招く。シンガポール宗郷聯合総会のその他の機構が毎年行っている「春到河畔迎新年」のイベントも新移民への参加を働きかけた。注目すべきは、宗郷聯合総会が2008年に開催した第二回

⁶⁷ 「総商会簡介」新加坡中華総商会サイト：<http://www.sccci.org.sg/index.cfm?GPID=6>

⁶⁸ 「新加坡宗郷会館聯合総会簡史」新加坡宗郷会館聯合総会サイト：<http://www.sfcca.org.sg/Association/history.htm>

⁶⁹ 詳細は彭松濤他編：『新加坡全国社団大観』、新加坡：文献出版公司、1983年、p.A-6。

⁷⁰ 方雄普・許振礼編著：『海外僑団尋踪』、北京：中国華僑出版社、1995年、p.369。

⁷¹ 「新加坡中華総商会成立移民組 助新移民融入社会」、中国新聞網：

<http://www.chinanews.com.cn/hr/kong/news/2007/08-10/998941.shtml>

⁷² 趙倩玉：「晋江会館青年団 団員半数是新移民」、『聯合早報』掲載、2008年12月8日。

⁷³ 夏婧：「新移民当上三江会館理事」、『聯合早報』掲載、2003年1月23日。

「みんなで歌う愛国歌」国慶節パーティーに、シンガポールの四つの新移民組織である華源会・天府会・九龍会・天津会が誘われ、一緒に愛国の曲を歌ったことである。これを通して新移民がシンガポール国民と一緒に国慶節を迎え、シンガポール大家族の一員になることが目的だった⁷⁴。イベントの時に誘い合うほかに、各イベントの共催、関わり合いも盛んである。たとえば、天府会と三江会館は2007年の元宵節に「新老移民新春交流会」を共催した際、シンガポール宗郷会館聯合總會に所属する191の会館の会長が招待された。500人の現地の新、老移民が一堂に介して親睦を深め、ネットワークが作られた⁷⁵。全体的に見えれば、イベント運営にあたる協力関係は新移民社団と伝統華人社団が連携する主な形だと言える。

結び

シンガポールは、19世紀のはじめに開港して以来ずっと移民社会である。「パワーの源は世界中からきた人々の異なる才能・経験・文化にある」⁷⁶と言われるほどである。1980年代以降の中国からの新移民の到来は、移民社会の発展過程の延長にある。中国系新移民が大量に南下することで、新移民社団がしだいに結成される。長期にわたり発展してきた中国系新移民社団は、すでにシンガポールの伝統華人社団とともにシンガポール華人社会において相当重要な役割を果たしている。

ただし、新移民社団自身の性格による問題や限界は免れられない。新移民社団が設立して日が浅い上に、伝統の華人社団と比べると、社団の運営・管理の経験がまだ浅い。組織の結束が弱く、規定制度も不完全な新移民組織が存在している。正式に登録もしていないのに対外的にアピールする組織もある。また、新移民社団には、経済力があり且つ人望が厚い華僑リーダーがまだ少ない。社団の間の連携も不十分である。一部の新移民社団は、主流社会に溶け込もうとする望みが薄く、シンガポール現地のコミュニティとの相互関係はまだ不十分である。

将来的にみると、経済グローバル化の流れの中で中国新移民がシンガポール主流社会と触れ合い・溶け込む度合いが深めるにつれ、新移民社団は、経済力が高まり、運営領域がさらに広がり、社団の発展モデルも多様化にしていくのであろう。新移民社団の今後の社会的機能は、主に次の三つの面において発揮すると考えられる。まず、新移民群の面においては、新移民社団は相変わらず新移民間のコミュニケーション、互助、余暇、健康などの重要な場である。また、新移民とシンガポール現地社会との関係を円滑化させる面においては、新移民社団は、新移民にシンガポール社会をもっと知ってもらい、新移民がシンガポール現地社会へ溶け込むように努力する一方、新移民の地域社会への貢献意識を高め、シンガポールの地域社会との相関関係を促す必要があるであろう。最後に、中華文化を伝承し、中国とシンガポールとの経済文化交流を促し、世界のその他の華人コミュニティとの連携を喚起する面においては、中国の平和崛起（平和的台頭）につれ、新移民社団は自身の優勢を生かして中華文化を広め、華文教育面を推進する分野で重要な役割を果たすのだろう。シンガポールが「中国経済特急」に乗っている現状で、新移民社団も中国とシンガポールとの経済貿易交流の中で力を振るうだろう。世界各地のその他の華人コミュニティとの連携を開拓する面において、新移民社団は華商ネットワークの役割をいっそう重視し、生かすことに努めるだろう。また、中国新移民の規模が絶え

⁷⁴ 「宗郷總會“大家唱” 為國家獻上生日祝福」、『聯合早報』掲載、2008年8月3日。

⁷⁵ 潘星華：「天府会和三江会館聯辦 新老移民約會在元宵」、『聯合早報』掲載、2007年2月26日。

⁷⁶ 「李顯龍總理獻詞」、華源会サイト：<http://www.myhuayuan.org/newwhy/t1.asp>

ず拡大していくことで、将来的に新移民団体の数も増えていくと予想される。新移民団体とシンガポール伝統華人社団が同じ民族・文化アイデンティティに基づき、互いの協力と連携をいっそう密接にさせていくのだろう。